

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 守恒中 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

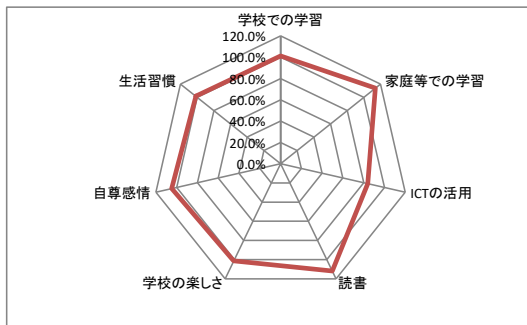
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全領域にわたって全国平均を上回っている。特に「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域ではその結果は突出しており、一方で「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」においては、これからのさらなる力が求められる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したのとして適切なものを選択する問題。	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字(よるこんで)を正しく書く問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的には平均を上回っており、特に「数と式」「データの活用」の領域では、その結果は突出している。一方で「図形」領域においては、比較的に無回答率も高く、これからのさらなる力が求められる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	「42を素因数分解する」という自然数を素数の積で表す問題。	
	努力が必要な問題	「目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する。」といった事象を数的に解釈し、問題解決の方法を数的に説明する問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的には平均を上回っており、特に「エネルギー」「生命」を柱とする領域では、その結果は突出している。一方で「粒子」を柱とする領域においては、これからのさらなる力が求められる。他教科に比べて無回答率が高いため、基礎・基本的な学習内容の定着が必要になる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	「液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する。」といった液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象について問う問題。	
	努力が必要な問題	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動では、自分で計画的に勉強を進めたり、授業以外での勉強時間は長い。しかし、学校の授業時間以外での読書の時間が短い傾向にある。また、授業の中でICT(タブレット)を活用していると答えた割合が比較的低い。 ・生活習慣では、基本的な習慣の定着ができている割合が高く、また自尊心なども高い結果となった。、地域や社会への関わりや関心についても前向きな傾向にある。携帯を扱う時間やゲームで遊ぶ時間に関して

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

基礎的・基本的学力は身に付いているがより一層の充実を図るために、朝自習テストや小テストの取組を継続していく。また、話し合い活動や教え合い活動を多く取り入れるなど授業改善を行っていく。また、全教科でのICTの活用を進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭で行う与えられた課題に対して、積極的に取り組むことを指導するとともに、より自学自習の習慣化の推進と質の向上のために、家庭学習用「守恒ノート」の有効的な活用を指導していく。また、保護者には保護者懇談会等を通して協力をお願いする。